

## 《高女グローバル研修 in USA Day6 (12月13日) 報告書》

Today is the day.とうとう迎えた語学学校最終日。日増しに生徒さん(引率者も)の登校時間が「早く」なっているという、アメリカ人にとっては恐らく怪奇現象レベルの高女グローバル研修 in ボストン、最終日。なぜ早まるのか、それは「ここにきて遅刻なんてお天道様に顔向けできない」ほど追い詰められているのか、早起きは三文の得ならぬ「早登校はきっといいことあるに違いない」的な神頼みに近い精神状態なのか分かりませんが、いずれにしても慣れから来る油断、隙を自ら滅していくコンサルティングいらずの自発的、かつ自然発生的なリスク管理なのだと思います。真面目、ひたむき、勤勉。日本の古からの美德ですが、グローバル云々を取っ払ってもやはり私たちに沁み込んだアイデンティティなのだと思います。

いずれにしても、さっさと塩対応で受付(出欠替わりの日記提出)を済ませ、クラスルームへ移動したり、留学生や先生を捕まえて話をしたり、恥も外聞もない、失うものなどない、遠慮などしてられない最終日の朝の風景でした。

ここで嬉しかった話を共有します。文法も、会話も高女生のみのクラスができたのですが、どうしても上のクラスにいきたいと月曜日から交渉を続けた生徒さんがいました。木曜日に再度つきつけられた答えは「NO」。それでも引き下がりません。引き下がれないのです。彼女には目的があったから。半ば根負けした Michelle (ヘッドティーチャー) が木曜の帰宅直前に「約束はできない。でも Nick(1つ上のクラスの担当の先生)に明日朝確認するからまたいらっしゃい」とのお達しが。そして今日、「Room2に行きなさい」とのこと、彼女は上のクラスへの切符を自らつかみ取ったのです。泣けました。

報われない努力はあってもそれはあくまで結果であって、プロセスは裏切らないと信じています。今回は成功体験となりましたが、でももし NO であっても、それも間違いなく長い目で見れば成功体験と言えたと思います。やったね!心から嬉しいです!

もう一つ、嬉しかった小話。前半の授業が終わったその時、突然入ってきた「あれ、怒ってます?」な表情の男性の先生。この部屋飲食禁止って書いてあるけれど、引率者特需で OK もらったよなー、あ、でもこの Dunkin' Donuts のシュガーを床にぶちまけたこと、ばれてしまったか、と怯えていると、突然彼の口から「素晴らしい生徒だった。感動した!(元首相風)」とのコメントが。彼のクラスにいた 5 名の生徒さんの名前を次々挙げ、突然にこりと笑い発せられたその言葉にこちらも感動した!!

授業後はそのまま修了証書授与式です。1人1人 Gwen から Certificate (修了書)を手渡されます。突然の振りにも関わらず英語で代表挨拶をしてくれた 2 年生、いつも本当にありがとう。あなたの気遣い、芯の強さを心から尊敬します。

少し Emotional な時間の後は、ボストン最後のゲスト、水曜日にハーバードの案内をしてくださった松川原康市氏によるレクチャーです。今年のタイトルは「AI 時代をどう生きる?」。

新潟県ご出身の松川原さんは慶応大学社会心理学部をご卒業後、JTB にてマーケティングを担当、その後渡米し起業するも二度倒産。現在は 3 社目である Mats & Associates, LLC.CEO を立ち上げ、マーケティング、イベントマネジメントを行っていらっしゃいます。突然の二度の倒産話に意表を突かれた形の生徒さんたちでしたが、「失敗を経験したことのない人間に、アメリカでは投資家は絶対に投資しない」という言葉に目を見開いて聞き入っていました。失敗を回避する考えは日本(企業)ならでは。その副産物として、大企業であればあるほどリスクを冒してまでチャレンジしないという側面もある。「それは私だ」と感じた高女生も少なからずいたのではないのでしょうか。「3 歳児に戻りなさい。まずは自分の本能に従って好きなこと、嫌いなことを書き出す。そしてなぜなのかを考える」

AI が仕事を奪うと言われるけれど、それは人間にしかできない仕事を奪うこととは違う。それでも確実に来る AI の今以上の台頭にあわせて、私たちはこれからどのような力を着けるべきなのかが今回のレクチャーの主軸ですが、一番のメッセージは「自分の思いに蓋をしない」ということ。「結局は思いの強さが全てを変える」ということであつたと私は理解しています。

Third door (3 つ目のドア)を開けるといふ発想は、恵まれた一部の人が入れるドアを通れないのであれば、王道である正面玄関にできた長蛇の列から抜け出して自ら新たなドアを作るという発想。

松川原さんの強いメッセージがどのように響いたのか、明日の日記の内容が楽しみでなりません。

「自分をねぎらって欲しい」「自分を大好きになって欲しい」と本気で語りかけてくれた松川原さんに、最後御礼とともにコメントを述べてくれた 1 年生、ありがとう。今日の勇気を他でもない自分自身が一番ほめてあげてください。皆さんも、今日の自分を最大限ねぎらって、昨日よりも好きになろう。

そして明日を最大限に楽しみましょう。

【今日の写真】 ※コメント作成に疲れたわけではありません・・・決して。

